

平成22年度 第2回
第4期 熊毛地区地域審議会
会 議 録

日 時：平成23年3月4日（金）

場 所：ゆめプラザ熊毛内

熊毛公民館2階 大会議室

【会 議 次 第】

- 1 開会

- 2 あいさつ

- 3 議事
 - (1) 検討課題についての現況説明・質疑
上水道

生活交通

道の駅

 - (2) 検討課題について協議

- 4 閉会

平成22年度第2回 第4期熊毛地区地域審議会 会議録

日時	平成23年3月4日(金) 13時30分～15時10分
場所	周南市ゆめプラザ熊毛内 熊毛公民館2階 大会議室
出席者	・委員 14人 (欠席1人) 檜山 隆、佐久田美智枝、竹本 新、河谷千代子、上田 悟、川野玲子、 升崎美彦、小松昭人、河内卓彦、桑嶋ゆり子、平岡勝成、棚田敬治、 上田辰巳、中村美代子 ・事務局 11人 環境下水道部 中村 壽男、環境政策課主幹 村井信治、熊毛総合支所 市 民生活課 課長 守田千秋、同課課長補佐 渡辺由也、同課係長 家永敦夫、 生活安全課 課長 藤井義則、熊毛総合支所長 福嶋崇男、次長 大宅英幸、 地域政策課主幹 國廣賢次、同課課長補佐 山根卓彦、同課員 広実暢英
資料	・「熊毛地域の水道基盤整備について」 ・「“和田の里あったか便” 運行実証実験の概要」 ・「『周南市東部道の駅』これまでの主な取り組み」 ・「熊毛地区地域審議会の審議結果」

会議議事録

1 開会

2 あいさつ(総合支所長)

3 議事(要約)

(1) 検討課題についての現況説明・質疑(各担当課から)

会長 前回の会議で、水の問題、生活交通の問題、道の駅の三つが議題として上がりました。今日は、この問題をどう扱うか結論をまとめたいと思いますので、よろしく願いします。それでは、水道問題から説明をお願いします。

上水道

事務局 (熊毛総合支所 市民生活課、環境政策課より説明)

委員 統合簡易水道事業という言葉の説明をお願いしたいのですが。

事務局 統合簡易水道事業とは簡易水道同士と一緒に運営する事業です。熊毛地域には、13の簡水事業がありますが、それらを一つの事業として行おうということです。現在、統合簡水事業にのっとって国庫補助をいただきまして、創設認可申請の作成をして

いるところです。13簡水の計画給水人口を足すと9,600人になり、計画給水人口が5千人を超える場合、統合簡水事業は上水道事業になります。熊毛地区水道事業ということで認可の申請を出しているところです。この事業認可を受けるにあたって、同じ箇所ですら二重に認可は受けられませんので、13簡水の廃止を条件に、八代地区を除いた熊毛地域の範囲で計画を行っております。

委員 環境政策課の説明で、三丘に浄水場を建設するか、他から買うかと言われましたが、他から買うとはどうことでしょうか。

事務局 水道事業には、独自で造った浄水場で水を作って運営する方法と、近隣の市が作った水を持ってくる用水供給事業の方法があります。水道事業では、浄水場の維持管理に一番費用がかかります。なるべく費用をかけずに水道事業ができるように、いろいろな検討をしている段階です。この事業には水利権がありますので、水利権を使用した中で、事業が出来る方法を模索している段階です。

委員 具体的には、光市とか下松市とかから水を買うというようなことを検討されているということですか。

事務局 三丘に浄水場を建設すると、費用だけでも10億かかります。そこで、一番近い市であれば光市に熊毛地域の水利権9,300m³の一部を売るというか預けるというか、そうすることで光市の作った水をもらえるのであれば、配水管の設置だけで配水が可能という考えもあるということで、このような方法が適合なのか、浄水場を建設するのとどちらの方法がいいのか、県から国に問い合わせてもらって考えをまとめる状況です。

委員 そうなると、他からというのは光市からということですね。あとは浄水場を三丘に造る、その二択になるのでしょうか。

事務局 現時点では、光市から水を買おうということ。それが、三丘に浄水場を造れば水が流れます。一部高いところに配水する場合は、ポンプ場を作って水を上げて流すということになるのではないかと思います。

委員 料金体系は市内で統一するのでしょうか。

事務局 熊毛地区だけの水道運営では何十億の費用がかかる事業は出来ませんし、平成28年以降は一市一事業ということで一括して水道事業を行うということですので、それまでに料金体系は同じにしていきたいと思っています。認可申請の書類では、周南市一事業の料金に合わせていこうという回答で、認可の申請を出しています。

生活交通

事務局 (生活安全課より説明)

会長 昨年の市長と語る会で、三丘・大河内・高水の三地区で、意見が出ていました。市長の回答は、地域で盛り上げてほしいということと、地域で運営の母体を考えてほしいということの二点があったと思います。それを踏まえて他に意見がありますか。

委員 鹿野地域での利用者は何人くらいいらっしゃいますか。

事務局 一日8人です。

委員 以前のバスの時は何人くらいでしたか。

事務局 バスも、人数は、基本的には同じくらいだと思います。

委員 500万円削減の根拠はなんですか。

事務局 赤字の路線バスを運行するために支出していた補助金と、現在のタクシーを運行するための費用との差額です。

委員 そうすると、このデータから、高水、三丘、大河内地区で、8人程度利用できれば運行可能というガイドラインができていますと考えて良いですか。

事務局 地域と走行距離によっていろいろありますので、試算してみないと分かりません。

委員 全く分かりませんか。

事務局 乗降客も運行距離も違いますので、それによって変わってくると思います。

委員 鹿野地域の運行距離が1日当たりどれくらいですか。

事務局 資料が手元にありませんが、詳細は確認できると思います。

委員 要するに、住民にやる気があって、システムの立ち上げれば可能ということはこのデータは示しているわけですね。

事務局 おっしゃるとおりです。路線バスを廃止して路線バスが無いところにも、自治会やNPO法人の皆さんが運行されるということであれば、可能性はあります。

委員 路線バスを廃止することを前提に福祉バスの可能性がある、ということですか。路線バスと福祉バスの共有は難しいでしょうか。

事務局 事業としては、競合しますとやはり撤退を考えるとと思います。

委員 現実的には地域の意見も出るでしょうし、難しい面があるみたいですね。

事務局 先ほど説明しましたが、一度、路線バスがあるところに福祉バスを走らせようとしたら、事業者が撤退するということから計画を変えられたということがあります。

委員 ある面でこのバスは、高齢の皆さんが車を使えなくなってきた時に必要という、福祉的な要素をもっていますよね。だから採算面だけの問題ではなく、結果的には、これだけのメリットが出ましたということもあるだろうと感じます。それと、私が知る限り鹿野地域は、施設が一箇所に集まっていて、そこに運ぶということで、施設の面を含めて地理的にやりやすかったような気もします。三丘や高水地区は地域にタクシー会社さんがあります。そうすると、福祉バスが走ると営業上困るでしょうね。そういう面では難しい地域ではないかと感じます。ただ、将来的には何か考ないといけなと思います。

事務局 現状そのとおりだと思います。その中で、将来的なことを目指してどうするかという事で、現在和田地区で実証実験を始めており、この結果をモデルとして、いろんな地域で活用したいと思っています。

委員 和田地区の実情を教えてくださいたいのですが、運転は誰がされているのですか。

事務局 運転は、自治会の皆さんです。

委員 自治会の中で、どのように決められているのですか。

事務局 予約を受けて何時にどこ行くとか、計画や運転、車の維持を含めて、全ての運営・運行を自治会でやっていただいています。

委員 その実情を、いずれ公表してください。

事務局 データを採って、地域の皆さんの意見をしっかり聞いて、公表したいと思っています。

委員 この地区の皆さんが、この乗り合いバスを始めるときに、あったらいいという声が上がったのでしょうか。地区の皆さんが、乗られないとやっても仕方がないということを以

前言ったのですが、地域の皆さんがこれだったらいいという声がどのくらい出てきたのか、住んでいる皆さんの意見はどうなのでしょう。

事務局 和田地区では長年にわたって交通問題を話し合っておられます。先ほど申しましたが、NPO法人を立ち上げられるまで数年かかっております。今回そのNPO法人の案が変えられて自治会になりました。これまで検討委員会を作られて、私どもも一緒に協議をしてきました。アンケートの実施や皆さんのご意見を聞きながら、草の根的な運動をしております。開始前にはどれだけ需要があるか一軒一軒まわって対象者を確認して、どういう時に使うことが可能かということまでやっています。始めたばかりで、今後どうなるかは分かりませんが、今のところ順調に利用者がいらっしやいます。

副会長 この件は、老人クラブも非常に問題視してしまっていて、和田地区では利用者を調べられたと言われましたけど、自治会の中で運転する世代の、40～60代の皆さんによって運営されていると思いますが、何年くらい先まで、例えば、運転ができるかということが考えられます。その時、市職員が運転をするということが考えられますか。

事務局 実証実験を始めたばかりで、確定したことは言えないのですが、できれば世代で受け継いでいただければと思っています。3ヶ月経って実証の結果を出しますので、利用者や運転者の意見を取り入れて、地元で今後どうするかを決めていただくことにしています。その後どういう支援ができるかというのを考えていきたい、と思っています。

委員 この乗り合いバスは、市が車を提供していますよね。それに係る維持管理費などの費用はどうなっていますか。それと、乗り合いワゴンを利用される鹿野地域に、病院や商店などそういったものがあるかどうかを詳しく説明をお願いします。

事務局 市は車輛、保険料、整備に係る経費などを支援しています。運転手の賃金は、実証実験ということで3千円の支出をしています。自治会では、運行配備計画、運転手の選出、予約の受付などの事務をされており、経費は、基本的にはガソリン代を出されています。地域の会社などに20社お願いされ、5万円程度集められて、啓発グッズやワゴンの飾り付け、旗を立てるなどの活動をされています。地域には、医者が一軒ありますが、ご高齢です。お店は数軒あるだけです。この計画が始まったのは、地域の高齢化による今後の問題があり、市街地までの交通手段の検討から始まっております。

会長 バスの件は、熊毛町の時代から協議会を設けて検討されたこともあります。私が知る範囲では、メリット、デメリットが大いにあります。例えば、路線バスの廃止や便が減ること、今後の受け皿がどうなるか、ということを考える必要があると思います。

道の駅

事務局 (地域政策課より説明)

委員 業務委託契約をされている(株)流通研究所というのは、どういった会社でしょうか。

事務局 こういった調査・研究で、山口県でも過去何件か実績がある会社です。

委員 どういった場所での実績なのでしょう。

事務局 光市や田布施町、長門市で実績があります。

委員 道の駅に携わったということですか。

- 事務局 光市では岩田に直売所的なものが、田布施町では役場から少し川下の方に直売所的なものが設置されています。長門市は道の駅に関して調査研究で実績があります。
- 委員 2月22日の東部道の駅協議会で、候補地のメリット・デメリットがありますが、メリットは大体分かりますが、デメリットというのはどういったものができましたか。
- 事務局 候補地ごとに、いろいろなメリット・デメリットがあります。デメリットは、例えば、国道2号の交差点付近では、進入路を設置する場合に規制等があり、単純に入り口を作れば良いということにはなりません。物理的に施工が不可能な部分、例えば、傾斜路は勾配があるところは難しいところや、造成をしたら景観が悪くなる場所、下水や雨水の処理が難しいところなどがあり、それらを踏まえて、出来る範囲で検討させていただきました。
- 委員 私は、平成20年9月25日の市民ワークショップに参加しました。その時、候補地は、国道2号西原交差点東側の案が多く出たと思います。これは大体そこをモデルとして考えられたことなのでしょうか。
- 事務局 その時のワークショップでは、熊毛地域では7箇所が選定されていたと思います。その中で候補地として一番いいのは、国道2号西原交差点ということだったと思いますが、物理的に不可能な箇所もありますので、候補地を最終的に絞込むのではなくて、交通量などにもより、まずは、国道2号の沿線が候補地としては一番いいのではないかと。ただ、そういう検討をする前に、どこならできるかということ、ワークショップと同じように想定箇所を決めさせてもらって、現状を基に検討させていただきました。
- 委員 山口県にもいろいろ相談されていると思うのですが、資料や実績について県内の状況はどうなのでしょう。
- 事務局 具体的な数字は、事業所ということで、なかなか出てこないのが正直なところです。一般的には、直売関係だけではなくて、道の駅自体で赤字とおっしゃるところはあまりないです。これは、数字の出し方はいろいろあると思いますが、地域振興ということで道の駅が地域に大きく寄与しているということもあって、赤字だとか黒字だとかいうのはなかなか出てこないというのが、現状です。
- 委員 私が知っている範囲では、ほとんど黒字ではないのでしょうか。それが実態だろうと思いますが、数字の出し方だと思います。テレビに出る道の駅は人を収容できるいいところがあると思います。普通の人、何か目玉が無い限りは、国道2号を走っていて、道の駅に寄ろうとは思わないと思います。集客力がある場所であればいいのですが、良く考えてやらないといけない感じがします。
- 事務局 おっしゃる通りだと思います。国道2号は交通量も多く、平日2万台くらいの車が通ることもありますし、そういったことはよく考えさせていただきたいと思っています。
- 委員 直売はほとんど赤字ではないですか。直売で黒字にしようと思ったら、かなり集客がないと難しいと思います。赤字か黒字がよく分からない状況では数字が出てこないと言い切れるものでもないと思いますし、赤字をそのまま次の世代に残すのもいけないと思います。黒字になるような好立地であれば、おそらく通常の商業施設が抑えると思いますし、普通の直営、直売は黒字が難しいのではないのでしょうか。
- 事務局 協議会の中で、そういった話を検討してまいりました。業者の話も伺い、収益を上げて更に活性化させるということが必要になると思います。先ほどおっしゃったように、利便

性や交通量の背景があって、まず一つは想定できるというのがございます。従来から山口県の道の駅は、当時の設置する方向性として百番台の国道、または山陰側ということで、大島町を除けば、山陽側にはないと思います。それは、これを地域の活性化の起爆剤にしようということで、そういった施設が作られました。当然、ドライバーの負担の軽減、24時間使えるトイレ、安全な交通といった目的で設置していることもございまして、黒字か赤字かはっきりしたことは申し上げられないのですが、そういった目的性をもって作っていきたいということをご理解いただけたらと思います。

(2)検討課題について協議

- 会長 審議会では、熊毛地域全体を考えて、行政に対して建議するか、意見書を出すか、要望書を出すか、ということになるかと思えます。その点を踏まえて皆さんに意見をお聞きしたいと思えます。
- 委員 交通のことですが、熊毛にある三社のタクシー会社に協力いただいて、市の補助を付けていただいて、小回りの利くタクシーというか、月替わりという感じで路線バスを走らせてもらったという思いもあります。
- 委員 バスの件ですが、住民の需要についてデータを取って、叩き台を出さないと難しいのではないのでしょうか。それがあれば、ある程度、選択肢的なものをつかめると思えます。
- 委員 これについては、去年の『市長と語る会』の時に、ほぼ周南市の考え方は話されたように理解しているのですが。地域の皆さんで良く考えてもらって、いい方法があれば、市は大きな気持ちで助成しますと話されたように理解しています。これは地区の皆さんで考えた形で動いた方がかえって良いという感じが私はしています。だから、これは、課題からは外して、まちづくり推進協議会などでも、検討していく課題では、と思えます。
- 委員 私も同じ意見なのですが、これからは地域で助け合っていくことになるのではないかと思います。ただ、誰かを責任持って乗せて行こうと思っても相手がぶつかって来る場合がある。和田地区では保険金はかけているというお話しでしたが、保険金だけで果たしていいのか。福祉バスは認可が難しいという話も聞きました。だから危険性も伴うということも考えて、助け合わないといけのではないかと思います。
- 委員 上下水道ですが、下水道は整備されていないところがありますし、水道事業についても先ほど市が言われましたので、これはおいておいた方がいいと思えます。それから学校舎の耐震化は要望できればと思えます。デマンド・タクシーと乗り合いワゴンですが、地域の実情や各地区での考え方、やり方も違うと思えますし、地区社協やコミュニティも出来ているので、自治会連合会も含めて、そういう中で考えては、と思えます。
- 委員 上水道に関して、今後、熊毛地域に大きな会社が入ってくる可能性がありますので、その水を確保できるようにお願いしたいと思えます。これまでの審議会でも建議書が出ておりましたし、少しでも安く、できるだけ早くというような、住民の協力が得られるような方法を探っていただけたら、と思えます。生活交通については、いのち育む里づくりの関係で、アンケートが八代で実施されました。熊毛の生活交通の縮図が八代みたくて、アンケートの中を見ると、行きたい方面が、下松、徳山、須々万、高森と、いろいろです。しかも、バスがあったら利用するかというと、意外と少ないという感じをもちまし

た。余談ですが、敬老会で、八代の出席者を増やしたいということで、昨年タクシーを雇われましたが、結局、出席者人数は同じでした。参加されなかった理由に、以前は足がないからと言われ、足を用意したら、歳を拾ったからと言われる。だから、現実にはやってみるとなかなか難しい。八代も一生懸命に取り組んでいますが、具体的になかなか踏み出せない。そうした関係で真剣に取り組んでくださいというような要望書を出した方がいいのでは、という希望、考えをもっています。道の駅については、審議会としてどうした方が一番良いのか、正直なところ、よく分からないというのが実情です。

会長

水の問題は、4市4町で合併する時からの熊毛の懸案です。前回の審議会も水の問題の意見が出ており、これがこの地域で一番重要なことでは、と感じております。バスの件は、自動車の関係、バスが減便になるとか、事故の問題など、メリット、デメリットがいろいろあると思います。まずは和田の様子をちょっと見てみるのもひとつと思います。また、各地域にコミュニティなどありますので、バスについてのアンケートを採ってみてからでも遅くはないかとは思いますが。道の駅は、協議会があるので、そちらに任せの方がいいのでは、という気がします。

副会長

道の駅は、協議会があるのに地域審議会が別のことを決めても、混乱するだけじゃないかと思ったり、専門家に任せの方がいいと思います。ただ、道の駅は採算だけで判断するものではないのでは、と思います。生活交通は、特に三丘、清尾地区の人が総合支所に来られる時の足が問題だと思います。60代はまだ運転できますが、後10年したらどうなるのかとか、そういうことを含めて、生活交通は、常に必要ではないが、必要な時に使えるということが大事ではないかと思ったり。上下水道は、会長が言われたとおりで、避けて通れない問題だと思います。

会長

他に無いようでしたら、上水に関して、私と副会長と事務局で要望書の案を作って、次回審議会の案内文と一緒に、皆さんに提示して、市の方へ提出したいと思ったり。

4 閉 会